

<別紙1>

## 第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

公益社団法人神奈川県介護福祉士会

②施設・事業所情報

名称：ユースフルデイりあくと	種別：通所介護	
代表者氏名：安部 記子	定員（利用人数）： 60名	
所在地：〒252-0254 相模原市中央区下九沢66-1		
TEL：042-700-2621	ホームページ：https://youthfulday-react.com/	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：2019年11月1日		
経営法人・設置主体（法人名等）：医療法人社団哺育会		
職員数	常勤職員： 19名 非常勤職員 11名	
専門職員	介護福祉士 14名 看護師 6名	
	理学療法士 1名	
	作業療法士 1名	
施設・設備 の概要	活動フロア2、機能訓練室1	浴室2、トイレ7
		静養室2、相談室2

③理念・基本方針

◇私たちの基本理念

私たちは、  
ご利用者1人1人としっかり向き合います。  
ご利用者の持てる力を最大限に引き出します。  
ご利用者と一緒に取り組み、挑戦します。  
ご利用者と一緒喜び、楽しみます。  
ご利用者の暮らしを支えるために結束します。

◇ユースフルデイ

ご利用者に「元気に(Youthful)1日1日(Day)を過ごして頂きたい」、そして、そのための「役に立つ、便利な(Useful)通所介護事業所(デイ)でありたい」という思いが込められています。

◇りあくと

英語にすると「REACT(対応、はたらき合う)」となります。それぞれのスペルについても、下記のように意味を込め、それぞれの英単語の頭文字を取って「REACT(りあくと)」としました。

Reveal(能力を引き出す)

Extract(抽出する)

Accept(受け入れる、ありのままを認める)

Consideration(思いやり、尊敬、深く考える)

Thoughtful(親切、心のこもった)

④施設・事業所の特徴的な取組

○市のハートポイント制度を活用して、利用者がボランティア登録を行い、地域のこどもセンターや高齢者住宅を職員と一緒に訪問して、折り紙を教えたりゴミの仕分けなどのボランティア活動を行っている。また、毎年、RUN伴（認知症の人や家族、支援者、一般の人がリレーをしながらタスキをつなぎ、全国を縦断するイベント）や、9

月のアルツハイマーデーのイベントに、利用者が職員と一緒に参加している。事業所にバザー係を置き、利用者と協力して年数回バザーを開催している。バザーの収益は、利用者の活動に還元している。利用者が職員と一緒に地域に出向き、活動を通して交流を深めている。

○自分たちにできる取り組みとして、まずは地域の方が足を運んでくれるよう、SDGs（環境問題や社会問題への取り組み）の取り組み「ちょっとついでのよりどころ」を企画したり、地域の方の機能低下を予防する「フィットネスカフェ」を運営し、利用者や家族からの相談の受付も行っている。地域の高齢者支援のネットワーク化の一環として、地域包括支援センターに協力して、近隣の郵便局や薬局、民生委員、自治会長と一緒に「ふれあいポスト」の活動を行っている。また、地域の医療・福祉連携会に参加して事業所間交流を図ったり、高齢者支援センターが主催する防災に関する実態調査に協力している。月1～2回、近隣の団地で行われているキッチンカーの「高齢者見守り巡回」に参加し、近隣高齢者の把握や交流を図っている。介護福祉の実践は事業所内で留めず、地域や社会活動に職員が利用者と一緒に参加して、仕事の楽しみややりがいにつなげている。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2022年11月3日（契約日）～ 2023年2月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（年度）

#### ⑥総評

◇事業所の特色や努力、工夫していること、事業所が課題と考えていること等

○上尾中央医科グループ（AMG）内に、さがみリハビリテーション病院があり、ユースフルデイりあくとは、さがみリハビリテーション病院を本部として、約100人の登録者に対し、1日型の通所介護（2階）と短時間型の通所介護（3階）を提供している。

○2019年11月に、通所リハビリテーション事業所から通所介護事業所に転換している。通所介護事業所の開設にあたっては、一緒に働く職員が話し合いを繰り返し、基本理念や方針、事業所名を、職員全体で作りに上げている。開設して4年目になるが、オープニングスタッフのほとんどが継続して勤務している。

○利用者は、入浴サービスを利用する他、個別リハとしてのパワーリハビリやエアロバイク、歩行訓練など、理学療法士や看護師による機能訓練を受けている。昼食、休憩後は、園芸や手工芸、オセロ、ゴミ入れ作りを行ったり、近隣の高齢者住宅に行き、ペットボトルの仕分けやウエス作りなどのボランティア活動を行っている。

○利用者や家族に満足度調査を実施して、通所介護で行いたい取り組みを聴いている。利用者からは、花壇作りがやりたい、裁縫がやりたい、将棋がやりたいなどの希望があり、プログラムに取り入れて実施している。また、認知症の方にはコグニサイズ（認知症のための身体と頭を使う運動）をその方の状態に合わせて行ったり、指ヨガやボッチャ、風船バレーなどを実施している。

○事業所内の運営チームを4つのカテゴリーに分け、全8チーム20グループを設置して、利用者の支援にあっている。利用者の機能訓練や日中活動を支援するため、機能訓練を行うチームや活動実践チームなどを置いている。通所リハビリテーション事業所からの「強み」を継続して実践している。

○年2回、管理者と全職員の個人面談を行い、目標管理面談と同時にキャリア面談を行っている。また、認知症に対するケアの向上を重視し、管理者自らが認知症介護指導者として人材育成に携わり、職員のスキルに合わせて認知症介護の研修の受講を支援している。介護福祉士であっても、認知症の基礎研修は必ず受講するようにしている。

◇独自項目への取り組み

○事業所におけるサービスの質の向上のためのシステムを確認する「発展的評価項目」に取り組んでいる。「排泄動作を諦めない」「最期の時まで大好きな『りあくと』で過ごすことができるケアを考える」の2例をあげて、取り組みの過程をPDCA（計画、実施、反省、課題の検証）に分け、実践を振り返っている。また、事業所が次の取り組みを計画する「課題抽出項目」では、「利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している」の項目に対して、今後の具体的な取り組み内容を決めている。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

受審にあたり、一つ一つの項目について、改めてチーム一丸となり、自分たちの取り組みを振り返り、課題や改善点について考えることができたプロセスが、今後の質の向上やサービス改善のために、非常に貴重で有意な機会になったと感じます。

一方で、事業計画や収支等の公表についての項目では、医療法人として、公表体制のない部分についても共通評価項目として挙げられていたため、どのように解釈をし、自己評価をしていけば良いのかがわからず、戸惑い、頭を抱えた設問もいくつかありました。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり